

地域連携推進委員会「活動状況と今後の展望」

委員長 金沢大学附属病院 坪内 清貴

【設立の目的】

薬剤師の偏在に伴う医療施設維持の困難化など医療資源不足への対応

人口分布の変化に伴う病院の再編・統合への対応

【現状と取り組みについて】

高齢化と人口減少が進む中で、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けられることを目指す『地域包括ケアシステム』の構築を推進するためには、医療資源の適切な再分配を進め、持続可能な医療体制を確立する必要があります。

そのようななか、病院機能や地域によっては薬剤師の偏在が顕著になり、将来に向けた医療体制の構築はおろか、一部では足元の医療の維持が困難な状況が発生しているなど、医療を維持する病院薬剤師の確保が喫緊の課題となっています。

問題の所在は地域によって大きく異なるため、地域ごとのニーズの違いを汲み取りながら、場合によっては行政を巻き込み、機能分化した病院間、病院薬局間での有機的な連携によって患者を支える仕組みが必要であります。ITの利用やお薬手帳などのツールの活用といったシステムに関する課題や、それを扱う薬剤師を含めた医療スタッフの教育といった課題もまた存在しています。薬剤師として国民のために何をすべきか、新人薬剤師・若手薬剤師にとって魅力的に映るような業務展開のモデルを構築できるよう、薬剤師の新たな役割を改めて考え、示さなければなりません。

当委員会は各地域の施設の代表者によって構成されています。各地域が離れていることから一堂に顔を合わせる機会を作るのはなかなか難しいところではありますが、急速に浸透しているweb会議システムなどをうまく活用し、薬剤師の充足・地域での偏在の解消に向けて忌憚ない議論を行う場としていきたいと考えています。